

会長、ありがとうございました。まず、甘利経済産業大臣に御礼を申し上げたいと思います。イタリアに対して過分なお褒めの言葉をいただきましてありがとうございます。それからもちろん、日本側の会長である福原さんにも御礼を申し上げたいと思います。また、イタリア駐日大使のボヴァ大使及びイタリア貿易振興会のヴァッターニ会長、それから今日から新しくイタリア側の会長にご就任されたジョルジョ・ザッパ博士、このお三方に御礼を申し上げたいと思います。ザッパさん今までの仕事が証となっているように、大変効果のある仕事をなさるだろうと私は思っています。

また、イタリア側の政府と、全体的にイタリアの生産システムがこのビジネスグループをととても重視しています。日本側のわれわれの友人が、日本におけるイタリアの存在が継続で大変高い品質のものだったことをご覧になったと思います。日本にはイタリア側の首相であるロマーノ・プローディと、二人の副総理大臣、マッシモ・ダレーマとフランチェスコ・ルツェリの文化大臣の訪問もありました。ここ何週間かの間、プリマベラ・イタリアーナにおいていろいろなイベントが開催され、皆さん、ご覧になったかと思います。これは、イタリアの文化と製品を日本において紹介する一連のイベントでした。

このイタリア・ジャパン・ビジネスグループは、私の見解ですが、二国間の経済関係の先端的な立場に置かれているものです。イタリア側の政府ができるだけこのグループの役割を高めることを望んでいます。

甘利大臣、われわれの出発点は何かという、イタリアと日本との政治的・経済的関係は非常に優れた状況にあると思っています。しかし、先ほど福原会長もおっしゃったように、今日われわれはより先へ進むチャンスがあると思います。既に非常に良好な関係ではありますが、これをより深めることができるのではないかと思います。そのチャンスは、全体的にはどこにあるかという、イタリアにおいても日本においても、今、経済が再び発展しつつあるわけです。イタリアの場合は大体年2%ぐらいです。2006年のGDPは大体2%ぐらい増加しましたし、今年度(2007年)はそれを上回る率で増加しています。日本の場合は、ここ60カ月ぐらいの間、非常に著しい経済発展を遂げています。ですから、イタリアと日本との経済関係、貿易関係を深めるチャンスだと思います。

確かにイタリアと日本との貿易を見てみますと、その関係は非常に深くはありますが、しかし、われわれがここに今日いるということは、もう一つの貢献したいことがあります。もちろんプリマベラ・イタリアーナでもって大体そのようなこともやり遂げたのですが、いわゆるイタリアと日本とのステレオタイプをなくそうという目的があります。日本は電子製品や自動車だけではありません。イタリアはファッションとフーズだけではありません。つまり、イタリアはもちろんファッションやフーズ(食材や食品)という二つの分野においてより品質を高めようと思ったり、先端的な、世界においてイタリアを代表するものでもありますが、しかし、イタリアはハイテク・機械というものもあります。今日ここにそのような例がありました。

昨日われわれは東京国立博物館に展示されているレオナルド・ダ・ヴィンチの「受胎告知」を見ました。レオナルドを見ると、イタリアの特徴が一つ表れます。レオナルドはただの偉大な画家であっただけではなく、大変優れた科学者であり、大変優れた、新しい技術を考え出した人でもありました。イタリアは今、レオナルド・ダ・ヴィンチと同じような役割を果たしていきたいというような希望があります。

ですから、イタリアという国はファッションとフーズの国ではありますが、機械と新しいテクノロジーの国でもあります。このようなことにおいて、今日これからのディスカッションの中で行われることですが、われわれのビジネスグループが、例えば環境テクノロジーやバイオテクノロジー、ロジスティック(輸送)、あるいはお互いの都市といった問題に直面することになり、取り上げることになります。ですから、これは恐らくわれわれ二国のイニシアティブの中心であると思います。

先ほどザッパさんもおっしゃったのですが、われわれの国が大企業の経済ではあるのですけれども、しかし、中小企業が大部分大きな役割を果たしているわけです。中小企業だからといって、品質が劣っているわけではありません。イタリアの中小企業は、いわゆるクラスター、産業主席地位というようなシステムの中で、非常に重要なイニシアティブを考えているし、ハイテクにおいても非常に高品質のイニシアティブを遂げ

ているわけです。われわれは、できるだけたくさんの人たちをイタリア・ジャパンのビジネスグループの中に取り込まなければならないと思います。このグループが今までやり遂げた仕事を考え、またこれからの未来的なことを考えながら、企業をベースにしてイタリア側と日本側でどんどん広がっていくことを望んでいます。

最後になりますが、あと一言だけ申し上げたいと思います。先ほど福原会長もおっしゃったのですが、われわれはただイタリアと日本との関係を見るのではなく、われわれが重視しなければならないのは、戦略的な関係と、第三国における投資と、それから両国に対する直接投資です。それは、イタリア側から日本における投資、日本側からイタリアとEUにおける投資ということです。この挑戦に挑んでいきたいと思いますが、全体的には直接の投資が、特にITとICTとテクノロジーにおける、日本のヨーロッパへの直接投資は少し増えつつあるわけですが、しかし日本におけるイタリアの直接投資は少ないと先ほど福原会長がおっしゃったのですが、それは全くそのとおりです。ですからわれわれは、両国の経済的関係はただの貿易関係であるのではなく、お互いの直接投資の関係であることも望んでいます。これはお互いの経済分野においてもそうだし、それから、イタリアと日本の強度のジョイントベンチャーにおいて第三国における協力という分野においてもそうです。これは特に、ヨーロッパ全体という非常に広い地理的地域においてです。

この間プローディ首相が来日した際に言ったのですが、イタリアは日本とヨーロッパとの橋渡しの役割を果たしたいわけです。今日は、われわれにこのチャンスを与えてくださってありがとうございます。イタリア政府としては、経済的・貿易的関係、イタリアと日本の関係を継続的に支えていきたいと思います。イタリアは今までもそうだし、もう何回か政治家は日本に来られたわけですから、できるだけこのような関係を支えていきたいと思います。ですから、このような精神を基に、このグループにおいて、場合によって小さな委員会や、全体の仕事をする活動対策委員会を作るというようなことが望ましいのではないかと思います。要するに、毎年1回会うだけではなく、その会ごとの間も継続的に経済活動と両国の関係を支え続けるための委員会が必要なのではないかと思います。

このような精神を持って、もう一度イタリア側の政府のあいさつを申し上げます。ありがとうございました。